



税金でつながる私たちの社会

大田区立南六郷中学校 三年 二橋 花衣

私たちの生活は、いろいろな税金によって支えられています。例えば学校や道路、病院や公園など、私たちが当たり前のように使っているものの多くは、税金によって作られたり、守られたりしています。税金は、社会のしくみを動かすために欠かせないものです。

そんな税金の使い方を、自分で少しだけ選べるしくみがあります。それが「ふるさと納税」です。ふるさと納税とは、自分が住んでいる町ではなく、他の町にお金を送って支援できる制度です。ふるさとを支援したい人や困っている地域を助けたいと思っている人たちが利用します。

私の家では山形県産のお米や宮城県の牛タンなどを返礼品として受け取ったことがあります。ニュースや教科書でしか知らなかった町が、急に身近に感じられたのは、とても不思議で楽しい経験でした。ふるさと納税を通して、地域の人々の努力や町の特徴を知ることができたのです。しかし、ふるさと納税は良いことばかりではありません。人気のある町に税金が集中しやすく、そうでない地域は十分に支援が届かない問題もあります。また返礼品が豪華すぎると、本来の目的である地域の支援ではなく「お得なお買い物」になってしまうことも指摘されています。

私たちは、返礼品だけに気を取られず、なぜその地域を支援したいのかどんな使い道が必要かを考える必要があります。

税金は私たちの生活を支える大切なお金です。ふるさと納税は、その税金を自分の意思で使い道を選べるしくみとして、とても画期的だと思います。私は、この制度によって、税や社会のしくみが少し身近に感じられるようになりました。将来、私が大人になったときには自分のふるさとだけでなく、日本のいろいろな地域を支援できるようやさしい社会を作る手助けをしたいと思います。

さらに、ふるさと納税のような制度を通して税金の意味や使われ方についてもっと多くの人が関心をもつことが大切だと考えました。税金は「取られるもの」ではなく、「社会をよくするための力」だと理解できれば私たちの社会はもっとよくなるはずです。自分たちの未来を支える税について考えることは学校の勉強としてだけでなく日々の生活でも必要なことだと感じます。

私はこれからも、ふるさと納税をはじめとする税のしくみを学び、自分の考えをもって行動できる人になりたいです。税金を支えることで、地域の発展や人々のくらしの向上に貢献できることは、とても誇らしいことだと思っています。これらの日本を支えていく若い世代として、税のしくみをしっかり理解し社会の一員として責任を持つことが大切だと改めて感じました。